



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第11回例会(9月30日)
平成28年10月7日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳アパート内
例会場 同上 TEL(651)1111(代)
例会日 毎週金曜日12時30分～

会長 駒木 進
幹事 海野 尚
会報 熊谷 隆司
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

ROTARY SERVING HUMANITY. '人類に奉仕するロータリー'…… ジョン F ジャーム



ゲスト卓話

「ガバナー公式訪問」

RI2520 地区 2016-2017 年度ガバナー
(大船渡西 RC)

濱守 豊秋様

皆さん、こんにちは。「大船渡西 RC」出身のガバナー、濱守でございますよろしくお願いいたします。

まず職業分類ですけれども、調整食品製造ということで、大船渡で弁当や寿司、病院や老健施設の給食などを行っています。

お話しする前に、東日本大震災では皆さんに非常に大きな、大きなお世話をいただきました。ありがとうございます。沿岸部にある津波に流されたクラブを回ったところ、皆さんが本当に感謝しておりました。「ロータリーは、すごい」とおっしゃる会長さんもいました。震災当時、私も同じですが、みんなで「これからロータリーはどうなるんだろう」と心配しました。しかし、大きな、大きな支援のお蔭で、「ロータリー活動を一生懸命にやらなければならない」と思い、一生懸命にやっていると、みんなが言っていました。だから私は、内陸部のクラブを訪問したときに、「皆さんの心を伝えます」と言って、回っているところでございます。そうしたら、まだ不幸半ばであるのに、台風10号でまた大きな被害を受けてしまった。他の地区のクラブからお見舞金が届いているクラブもありますし、2520地区でもお見舞金のお願いをしているところでもあります。

今年度の方針「復興支援に感謝して、ロータリーボイスで行動を」

先ほど会長幹事会を行いました。いろいろと話しましたがけれども、私としては何も言うことがない。盛岡ロータリクラブは、良いクラブだ

と思います。会員増強も、今年度は4人か、5人ぐらい入ったということで、本当に感謝、感謝でございます。

今年度のRI会長の方針は、皆さんもご存知の通り、「人類に奉仕するロータリー」でございます。人類に奉仕するには何が必要なのか、というと、まず会員増強をして欲しいという話です。そして、財団への寄付ゼロクラブをなくして欲しいということです。「財団に、ただ寄付するだけでなく、3年経てば地区に半分返ってくるのだから、それを利用して地区補助金、あるいはグローバル補助金として、地域に奉仕してください。そして、人類に奉仕して欲しい」。そういうことを言っています。そして来年度、ロータリー財団は100周年を迎える。それを記念して「ポリオをなくそう」と。「ポリオ撲滅が達成できたら、ロータリーでは新しい奉仕活動を始めよう」と、そのようにお話ししているところでございます。財団への寄付ゼロクラブをなくすには、どのような方法でやったらいいのか。これは、私の考えですが、今年度の方針を「復興支援に感謝して、ロータリーボイスで行動を」と決めたところでございます。ロータリーボイスとは、あまり聞いたことがないのですが、私も2年前、勉強会に行って、初めて教わりました。賢明さ、思いやり、粘り強さ、行動を促す力と、4つになります。大型プロジェクトを組んで、それを達成するには、賢明さも必要だし、常に思いやりをもって行動すること。そして、粘り強く行動しなければならないのだということをお教わってきました。そういうことで「ぜひロータリーボイスを活かして、ロータリー活動

をやって欲しい」ということをです。

東日本大震災では、皆さんにいろいろとお世話になったんですけど、私は復興支援委員長として震災後の3年間、やってきました。そこで、いちばん大きなプロジェクトを皆さんに紹介します。なかなか達成できなかったんですね。これは、大船渡の街の中に知的障害者のグループホームがあったんですが、それが全部、津波で流されてしまった。それで「非常に困っている」という話が震災直後に来ました。「ロータリーで、これを何とかできないか。グループホームを造ってくれないか」という話なんですよ。「いくら掛かるの?」と聞いたところ、「5,000万円」ということなんですよ。建物に3,500万円、土地代が1,500万円ということでした。それで「土地代がダメなのであれば、土地代は我々が何とかするから」と言われて、それをクラブに話しました。そうしたら、大船渡の人たちは「よし、やろう」となりました。支援金をグループホームに充てたのですが、いくら集めても最終的に2,000万円しか、集まらなかったんですよ。全然足りない。「どうしよう」と本当に困りました。そうしたら、そこに「難民を助ける会」が入ってきたんですね。そして「我々に3,500万円、出させてくれ」となった。すぐにオーケーしました。他の支援グループといっしょに活動することもあるのですが、「それでもしょうがない。やろう」と決めて、難民を助ける会から3,500万円、うちのクラブからは1,500万円を出しました。2,000万円集まったんだけど、残りの500万円は別な活動に使う。そうやって、グループホームを完成させることができました。これは、クラブの会員もそうですけども、回りからはすごく感謝されましたね。「ロータリーはすごい」と、涙を浮かべて言う人もいました。「まさしく神様が我々の苦しさを見て、難民を助ける会を連れてきてくれたんだな」と、感謝しました。

話が変わりますけれども、私はこうしてガバナーとしてやっていますが、私がガバナーになるなんて、本当に考えられなかったんですね。大震災で、私も会社も大きな被害を受けました。もちろん、クラブも75パーセントぐらいは大きな被害を受けていますから、ガバナーの話が来たときも、ずっと断っていましたよ。「こんなに大きな被害を受けて、私は復興委員長をやっているのだから、無理だ」と言ったのですが、パストガバナーがなかなか諦めない。そして、とうとうロータリーボイスの粘り強さに負けて、私は引き受けることにして、こうしてクラブを回って歩いているということでございま

す。今年度の1年が終わったら、RI会長に「2520地区は、世界のロータリーの皆様からの大きな、大きな支援によって、これだけ立派な地区になりました」と報告したいということなんです。会員増強については「これだけ増えましたよ」と。うちの地区は7月と8月で56名、増えています。「一年で、これだけ増えました」と。そして、「財団への寄付ゼロクラブがなくなりました」と、報告したいなあ。そういうことで、皆さんにもご協力をぜひお願いしたいのでございます。

貧しい家庭に生まれ、母の涙で 船員となることを決意

さて、話は変わりますけれども、RI会長が国際協議会で話したことなんですけれども、「公式訪問などでクラブを回ると、ガバナーには30分間の講話の時間を与えられる。30分間、ただロータリーの話をしたのでは、最後にはみんなに飽きられてしまうんだよ。それよりは、自分の人生経験。いろいろな経験をしたことを、少しでいいから話に加えたほうが良いのだ。だから、それをぜひ、やって欲しい」ということだったので、私も自分の人生について、少しお話ししたいと思います。

私は昭和19年生まれ。10月生まれなので、来月で72歳になります。非常に貧しい、貧しい家庭に生まれたいですね。親父が漁船の機関長をしていたのですが、体の病気で船にも乗れない。それで休んでいたんですね。戦争にも行けなかったということで、私がよく言われたのは「俺が戦争に行けなかったから、おまえがこうして生きている」。父が体を壊し船に乗れずに休んでいたの、生活保護をもらっていたんです。生活保護を早く辞めたいから、私に「船に乗ってけろ」「船に乗ってけろ」と言う。船に乗れば、勤めに出るよりお金になるから、「船に乗ってけろ」と何度も言われました。だけど私は、ずっと断り続けていました。「船にだけは絶対に乗らない」と言っていた。そうしたら、ある夜に母親が市役所に生活保護費をもらいに行き、家に帰ってきた。母親は、その話の中で泣くんですよ。泣いて「おら、市役所にお金なんか、もらいに行きたくない。きょうは散々、文句を言われてきた。『いつまでもらうんだ。もう辞めてもいいんじゃないか』と言われた。食べる物がなくてもいい。死んでもいいから市役所には行きたくない」と言うんですよ。母親の涙を見て、私は船に乗ることを決めました。それで、中学校の先生に話したところ、先生は

「よし、わかった」ということで、「無線電話の講習会がある。それに出て、無線の免許を取ってから船に乗ったほうがいいんじゃないか」という指導を受けて、私は講習会に参加しました。それで本当に免許が取れてしまったんです。そして中学卒業後、無線の免許証を持って船に乗りました。いちばん最初は、100トンの機帆船だったんですけど、1年間は飯炊きと無線をやりました。2年目から機関まで入ったんですけどね。船に乗って1カ月して、1カ月分の給料をもらいました。そしたら、船には無線の免許を持っている人がいなかったんですね。無線電話はあったのですが、免許がないのに使っていたんですよ。そこに免許のある私が入ったので、飯炊きをしながら無線も使いました。そうしたら、会社からお褒めの言葉をもらい、1カ月分の給料をもらったとき、別な手当を1カ月分、ボーナスみたいなものですけど、もらいました。それをもらってすぐ、大船渡に船が入ったので、私は家に駆けて行きました。母親に2つの給料袋を渡して、泣かれたことがありました。

その夜、船がすぐに大船渡を出航しました。そして次の朝、昭和35年5月でした。私は太平洋上で、チリ津波に遭ったんです。初めての津波でしたが、そのときは大船渡の無線局から問い合わせが来るので、無線で話さなければならなくて、それに戸惑い、話すのに苦労したことがありました。そういうことがいろいろあって、私は2年目から機帆船ではなく、1,000トンぐらいの船に切り替えて、機関場に入っていたんです。しかし、人間というものは誰でもそうなんですけど、先を見たいんですね。私も、いつまでも内航生活をしていたくない。外国航路に乗りたくて、船員生活も4年経ってから、外国航路に乗る決意をして、東京・品川にある船員安定所に行きました。ちょうど東京オリンピックの年だったんですけど、「機関場では仕事がないよ。だけど3日後に出航する船が1人、募集している。賄いだ。それで良ければ、世話してやる」ということで、二つ返事で「賄いでも、外国航路の船に乗れるのであれば」と、その船に乗りました。そして2年目に、とてもきれいな海を見たんですけど、アメリカに行く途中の太平洋でした。その日は空に雲もなく、風もまったくなかった。いい日でした。あまりにもいい日だったので、私はデッキに立って海を見下ろしたんですよ。そうしたら、その海のきれいなこと！ エメラルドグリーンと言いますけれども、エメラルドグリーンに輝く海！ あんなの初めて見ました。それを見ていると、悩みや苦

しみ、考え事をみんなエメラルドグリーンの海が全部、吸い取ってくれる。きれいな心にしてくれる、と感じました。あの海のきれいなさには、私もビックリしました。この話を石巻で話したら、石巻の会員さんが「おれも見た、本当にきれいだ。あの色がエメラルドグリーンっていうんだよな」と言っていました。その海を見てから、自分の座右の銘を「エメラルドの海のように、私はなりたい」に決めて、たまにそんなことを思い出しています。

英霊におにぎりを手向け、 仲間と出会った「縁」

それから1年ぐらい経って、今度は「賄いで乗ってもいいや」ということの現実が見えてきた。次は、オーストラリア航路だったんです。大阪・神戸を出てから、グアム島近辺を船が走っていた夜、サロニウムで一杯やりながら話をしてた。そのとき、戦争を経験した大先輩が「我々は、この島々に来て、アメリカ兵と戦った。戦ったと言っても、ただアメリカ兵に捕まらないように逃げるだけだった。昼間は逃げて、防空壕に隠れる。夜になれば、そこから出て、食べ物を探し歩いたんだ。でも、アメリカ兵に撃たれて亡くなった者もいっぱいいた。食べる物がなくなって死んだ者もいっぱいいたんだ。だから、この辺を通るときには、おにぎりを握って、戦友に船からおにぎりをよく手向けたものだ」という話を教えてくれた。私は「賄いでもいいから船に乗ろう」と決めたのは、そういう話を聞くためだと思いました。「おまえも、おにぎりを握って手向けろ」と、私に言っているように聞こえたので、オーストラリアからの帰りにまた、グアム島近辺を通るとき、おにぎりを握った。親父から言われた「おれが戦争に行けなかったから、おまえは生きているんだ」という言葉も頭に浮かんできて、握ったおにぎりを戸棚に隠しておいて、夜中におにぎりを持ってデッキに立ち、「日本のために、皆さんいろいろありがとございました。皆さんのお蔭で、私もこうして生きています。ありがとございます」と言って、おにぎりを手向けたことがあります。

それから、いろいろと出会いがあって、10年間の船員生活を終えることにしたんです。仲間がいっぱいできて、仲間といっしょに陸に上がり、今の商売を始めたんです。これが要するに、縁だったんですね。戦死者へおにぎりを手向けたのも、縁だったと思っているんです。船を降りて5~6年経ってから大船渡に戻ってき

たんですけど、商売を始めて40年になります。東日本大震災で大きな、大きな被害を受けなければ、地震の翌日から、職業奉仕。おにぎりを握ったり、弁当を出したり。3月12日から4月11日までの1カ月間だけ、無償で毎日、ライフラインがストップする中、沢水を汲み、薪でごはんを炊いて炊き出しをした。そういうことがありました。無償で弁当やおにぎりを配った。これがパストガバナーに評価を受けたんです。私は「そんなこと、関係ないから。職業奉仕だから」と言ったこともありましたが、みんなに感謝する心がいちばん大事だから、ガバナーになって、みんなに『ありがとう』と言ってくれよ』と言われて、私はガバナーになったということでございます。

そして今年度、11月に地区大会をすることにしました。初めて11月にやります。大船渡でやります。なぜ、大船渡でやるか。11月は、アワビの季節です。大船渡の復興アワビを皆さんに食べて欲しい。そして、もうひとつあります。先ほど会長幹事会でもお話ししましたが、11月に地区大会をやって、今年度ほどまで各クラブが達成できたか。まだ達成できないクラブがあったら、「これから、まだ6カ月も7カ月もある。頑張ろう。復興支援に感謝して、みんなで頑張ろう」と声を掛け合おうということで、11月に決めました。皆さんのご支援・ご協力をお願いして、私の講話といたします。皆さん、ありがとうございます。

例会報告

第11回例会 平成28年9月30日(金)

- 12時30分 開会点鐘
 ・司会 駒木 進会長
 ・ソング 手に手つないで
 ・9月の歌 斉唱(故郷 ふるさと)
 ・ゲスト RI2520 2016-17年度 濱守豊秋ガバナー(大船渡西RC)・RI2520 2016-17年度 錦山 功副代表幹事(大船渡西RC)
 ・会長報告 駒木 進会長
 ・幹事報告 平野佳則副幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡東R.C.=10月17日(月)は、通常夜例会18:30~「焼き肉ダイニングじゃん」会場変更

【ニコニコBOX】

- ◆社会奉仕委員長佐藤重昭君…例会出席ががんばしくなく、駒木会長様、海野幹事様、役員の皆様申し

訳ありません。実は「秋のいわて国体プログラム」の「いわてアートプロジェクト2016」が9月30日(金)~10月12日(水)まで当家旧宅、岩手銀行赤レンガ館、もりおか町屋物語館、もりおか啄木青春記念館の4か所での度開催の運びとなりました。ちなみに実行委員長は福井誠司会員です。主会場の当家では、9月30日(金)~10月7日(金)までアカデミー賞を受賞したNYの写真家マクダレナ・ソーレ展、そして10月10日(月)~10月12日(水)まで、スペインを代表するアーティスト、ホセマリア・シシリア展が開催されます。盛岡RC会員の皆様におかれましては、もしお時間が許せば、ぜひご来場をお待ちしております。開催時間は10時~16時となっております。9月30日(金)正午からオープニングセレモニーを開催予定です。私は会場に常駐はできませんが会員の皆様にお会いできれば幸いと存じます。参考にリーフレットをご覧ください。本日オープニングセレモニーで欠席のため、ニコニコさせていただきます。

- ◆小川 惇君…濱守ガバナーの公式訪問を歓迎し、11月の地区大会のごちそうを楽しみに参加したいと思えます。
- ◆岡村 弥君…濱守ガバナー、錦山副代表幹事のご訪問を歓迎して、ニコニコします。これからもご健勝での大活躍を心よりお祈り申し上げます。
- ◆吉田幸一君…懸案の当社「川口印刷工業東京支店工場」が落成し、9月23日から新工場で営業開始することができました。場所は田端と王子の中間地点で、新幹線からも看板が見える立地条件は大変良い場所です。280坪の敷地に延建坪面積724坪3階建てです。これから豊富で広い東京市場で活動範囲を広げていきたいと考えております。今後共ご支援の程お願い申し上げます。

- メイクアップ
盛岡南R.C.=吉田(幸)君。クラブ委員会=藤村(文)・福井・平野・岩野・坂本・佐藤(仁)・白石・海野君。

出席報告 会員数 /74名 出席数 /45名 出席率 /62.5% 前々回 /77.78%

プログラムの お知らせ

- ・10月 7日(金) ゲスト卓話 太田代政男 様(岩手県合唱連盟 名誉会長)
- 14日(金) 第2回クラブアッセンブリー
- 20日(木) 秋の懇親会(21日例会変更)
- 28日(金) 会友卓話 下山 寛 会友

- 本号編集担当 / 九萬原敏巳
- 次号編集担当 / 楢崎 憲二